

学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成

～伝え合い交流する～

I 研究の具体的内容

1 「伝え合い交流する」ことをより充実させる授業づくり

(1) 研究授業及び研究会

第5学年 道徳「その人にとってのいちばんとは」 授業者 田邊 博幸 教諭
・助言者 峡東教育事務所 指導主事 三森公仁 先生

(2) 実践授業及び振り返り

第1学年 音楽「ようすをおもいうかべよう」 授業者 鈴木奈津美 教諭

第2学年 算数「かけざん」 授業者 新海小緒里 教諭

第3学年 算数「円と球ーまるい形を調べようー」 授業者 井上 甲斐 教諭

第4学年 算数「広さを調べよう」 授業者 広瀬 早理 教諭

第6学年 国語「この絵、わたしはこう見る」 授業者 飯室 美華 教諭

ひまわり学級 第6学年 国語「漢字を正しく使えるように」
授業者 小野 紀男 教諭

2 意欲的に学ぶ学習集団づくり

(1) 学習規律の確立

- ・「学習のきまり」の見直し
- ・学習規律に関するアンケートの実施と分析
- ・学習規律アンケートの結果を受け、全校朝会での児童への働きかけ

(2) Q・U 調査の分析と対策

- ・K・13 法による分析と対策

3 学びの基盤となる学習環境づくり

(1) 家庭学習の習慣化のために

- ・自主学習の取り組みについてのアンケート実施
- ・自主学習掲示板による自主学習の紹介
- ・家庭学習強化週間などにおける、家庭学習の必要性などについて家庭への啓蒙

- ・自主学習ノートチャレンジ週間の実施と学習内容の紹介
- ・慣用句の掲示

II まとめ（成果と課題）

1 授業づくりに関わって

学習会や研究授業を通じて、「伝え合い交流する」ための具体的な学習活動について学び、実践してきた。「可視化」ということをキーワードに、伝え合い交流するための手立てとして、ワークシートやホワイトボードを活用すること等、各学年の児童の実態に合わせた手立てについて研究を深めることができた。また、ペアやグループなどの学習形態の工夫も有効であった。

しかし、お互いの考えを深め合うことや、交流するということに関しては、まだ十分とは言えないので、これからも継続して取り組む必要を感じる。話し合いの手順の確認や、話し合いのスキルを身につけること、発言に対しての揺さぶり等学びを深め、考え方が交流できるような方法に焦点を絞って研究する必要があると思う。

2 学習集団づくりに関わって

Q-U アンケートを2回実施し、K-13法による分析を行った。様々な視点で児童のようすを分析したり、解決方法を考えたりすることで学級集団作りに生かすことができた。しかし、ブロックでの分析だったため、全体で問題点を共有することができなかった。全職員で結果を共有し、共通理解の下指導できるようにしたい。

大和小の学習のきまりについては、年2回のアンケートを行い、全校集会等で児童への意識付けを行った。2回とも同じような項目が定着していないという結果が出たため、アンケートの取り方や内容について検討する必要性がある。

3 学習環境づくりに関わって

2回の自主学習のチャレンジ週間を行ったことで、児童が意欲を持って取り組むことができた。しかし、チャレンジ週間後も継続して取り組むことや、内容の個人差への対応については、手立てを工夫する必要がある。自主学習に対する意識付けや取り組み方など、基本的なことをもう一度年度当初に確認・指導し、丁寧に取り組む必要がある。自主学習の強化週間の取り組みは、児童だけでなく、お便りやアンケートにより、保護者にも学校での取り組みを知ってもらおう機会となっている。家庭学習の定着には家庭の協力が必要なので、今後も協力を仰ぎ、連携を図りたい。

慣用句の掲示は、児童が興味を持つきっかけになり、自主学習に生かすなど効果的であった。児童が興味を持って取り組めるような環境づくりを今後とも取り入れていきたい。

III 成果物

研究授業、実践授業の授業案（ワークシート等も含む）

（研究主任 新海 小緒里）